

繋 谷地南部っ子

令和7年度 学校便り
R8. 2. 27
NO 29
校長 秋場 一憲



経営キーワード「言葉（言葉遣い・言語力）」・自立（自ら判断実践・協働的解決・新たな課題追究）」

児童会の企画・運営力と自治力を高めるために

～ 児童会「冬まつり」から見えた子供たちの力 ～

2月12日（木）、児童会が企画・運営する冬まつりが行われました。これまでも児童会活動を子供たちの成長機会ととらえ、子供たちの思いや願いを生かした主体的な活動となるよう支えてきました。そのような中で、本校児童会活動の課題の一つが、コロナ禍での活動を継続していないかという現状でした。最初から縦割り班毎に分かれた活動が前提となり、ゲームの内容が変更となる程度。もっと学校全体としての一体感や仲間意識を高められないかと、児童会担当教員と子供たちが話し合いを重ね、今年度の企画が生まれました。積雪量が十分であればグラウンドで雪に親しむプログラムを用意していましたが、やむなく体育館での楽しいゲームに変更。「全員の笑顔が見える企画」「全員が心を繋ぐ企画」そして「谷地南部小の良さを全員で共有する企画」となりました。今回見えた企画・運営力を伸ばしながら、子供たち同士が励まし合い、時には注意し高め合う「自治力」を一層伸ばしていけるよう指導・支援していきたいと思えます。



ボール送りゲームで心を繋ぐ



谷地南部小の良さを発表



じゃんけん列車で温かな触れ合い



影の功労者、5年生の努力

交通指導員並びに見守りボランティアの皆様への感謝の会

2月19日（木）朝の時間に交通指導員並びに見守りボランティアの皆様へ感謝の気持ちを伝えました。代表児童の挨拶や花束贈呈、そして校歌を歌う心からのプレゼント。これからも毎朝の挨拶や感謝の言葉、自分の命を自分で守る意識を持ち続けることで感謝の気持ちを伝え続けたいと思えます。



代表児童の感謝の言葉



花束贈呈

若手・新任教職員&町職員紹介シリーズ 第9弾(最終)

上記シリーズも、今号でとうとう最終回となります。今回は、教頭と新採教諭の2名を紹介します。いずれも新採というフレッシュさを前面に出しながら持ち味や強みを発揮し、日々、学校運営並びに子供たちの学習指導・生徒指導に尽力しています。

樋口智一 教頭

今年度より本校に赴任した樋口智一 教頭。校長の補佐役として、報告・連絡・相談を徹底し、様々な事案に対し組織的対応ができるよう努めています。また、危機管理意識が高く、自身の考えを校長に提案したり他校を参考に熊対策マニュアルを速やかに作成したりしました。そのほか、職員室経営の要として日頃から教職員一人一人とのコミュニケーションを大切にし、若手教職員へのアドバイスも適切かつ丁寧に行っています。さらに、ICT活用技術に秀でており、タブレット活用の促進を図り、本校のみならず河北町のICT教育推進に欠かせない存在です。



3年書写の授業

池田真菜 教諭

今年度、新採教員として赴任した池田真菜 教諭は、2年生を担当しています。自身の持ち味である「粘り強さ」を大切に、2年生の学習指導や生徒指導、そして学級経営に尽力しています。初任研指導担当の教務主任のほか、教科専科教員や初任研後補充講師のアドバイスに真摯に耳を傾け、実践に繋げています。子供たちの声を丁寧に吸い上げ、対話を重視した授業デザインが見られるよう成長しました。そして、困り感を抱いた時には一人で抱え込むことなく周りに相談し、しなやかに対応しています。また、応募関係を担当し、多くのコンクール等への出品・入賞に貢献しました。



子どもの目線に立って

まなびアップ展示会で家庭学習の充実を



好ましい家庭学習習慣形成と自己学習力向上に繋げるために、家庭学習の充実を図るための取組み「まなびアップ展示会」を行いました。期間は、2月13日(金)から20日(金)までの6日間です。ねらいは、各学年の学習成果を全校で共有し、家庭学習の質の向上を図ることと、仲間からの評価とアドバイスを受けることで学習意欲を高めることです。玄関ホールには、とても丁寧な文字で書かれたノート等が展示され、他学年の子供たちが真剣にコメントを書いている姿が毎日見られました。



子供たち同士の交流

